

北海道における国際会議等 誘致の取組と現況について



イランカラプテ

「こんにちは」からはじめよう。

イランカラプテ(アイヌ語のこんにちは)を北海道のおもてなしの合言葉に!

平成29年11月9日

北海道



◆国際会議等の北海道開催推進に係る取組と方針



- 北海道では、2008年に開催された「**北海道洞爺湖サミット**」を契機に、**国際会議等の誘致に係る取組を強化**
- 海外との交流人口拡大のため、市町村やコンベンションビューローなど地域の関係者と連携し、官民一体となった戦略的な取組を推進

北海道における国際会議等誘致の取組

- ◆ 道内市町村や経済界などと連携し、「北海道国際会議等誘致推進会議」を設置(H20.9)
- ◆ 道庁内に「国際会議等誘致推進部会」を設置し、連携を強化
- ◆ 市町村やコンベンションビューローと連携した誘致活動の展開
- ◆ 知事名による招請レター発出

「国際会議等の北海道開催の推進について」 (H20.7.4 閣議了解)に基づく国からの支援

- ◆ 「国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議」の開催(毎年)
- ◆ 各省庁と北海道関係者による「情報交換会」の開催(毎年11月頃実施)
- ◆ 大臣名等による招請レター発出

＜北海道＞
「輝きつづける北海道」
(北海道総合計画H28.3)

主要な政府間会議をはじめとする
**国際会議・学会等の北海道開催により、
北海道ブランドを戦略的・効果的に発信**

＜国(北海道局)＞
「世界の北海道」
(北海道総合開発計画H28.3)

- 「2030年にはアジアNo.1の国際会議開催国として不動の地位を築く」
(未来投資戦略2017)
- 「観光立国の実現」(明日の日本を支える観光ビジョン) など

政府の目標達成に貢献

◆これまでの誘致活動の成果



北海道洞爺湖サミット以降における主な政府系国際会議の開催状況

| | | | |
|----------|------|--|------------|
| 2008年12月 | 第1回 | G8水と衛生に関する専門家会合(外務省) | 【帯広市】 |
| 2009年5月 | 第5回 | 日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議(太平洋・島サミット)(外務省) | 【占冠村】 |
| 2009年6月 | 第8回 | 日豪観光交流促進協議(観光庁) | 【ニセコ町】 |
| 2009年6月 | 第7回 | 日ASEAN次官級交通政策会合(国土交通省) | 【函館市】 |
| 2010年5月 | 第12回 | 日中韓三カ国環境大臣会合(環境省) | 【千歳市・苫小牧市】 |
| 2010年6月 | | 日本APEC貿易担当大臣会合(外務省、経済産業省) | 【札幌市】 |
| 2011年5月 | 第15回 | 日・オーストリア21世紀委員会(外務省) | 【小樽市】 |
| 2012年6月 | 第5回 | 日中航空政策対話(国土交通省) | 【釧路市】 |
| 2012年10月 | 第13回 | 北東アジア港湾局長会議・シンポジウム(国土交通省) | 【小樽市・札幌市】 |
| 2012年10月 | 第27回 | 日韓観光振興協議会(観光庁) | 【函館市】 |
| 2013年11月 | 第13回 | 日中韓特許庁長官会合(特許庁) | 【札幌市】 |
| 2014年2月 | 第11回 | 日ASEAN港湾保安専門家会合(国土交通省) | 【札幌市】 |
| 2014年11月 | 第17回 | 米国との将来の航空交通システムに関するWG(国土交通省) | 【札幌市】 |
| 2014年12月 | 第6回 | 日本・ニュージーランド会議(外務省) | 【札幌市】 |
| 2015年1月 | | 東アジア・オーストラリア地域・フライウェイパートナーシップ第8回パートナー会議(環境省) | 【釧路市】 |
| 2015年9月 | 第7回 | 日ASEAN防衛当局次官級会合(防衛省) | 【札幌市】 |
| 2019年 | | G20関係閣僚会議(外務省)(誘致に向けて活動) | 【札幌市】 |

<参考:民間・学会主催の主な国際会議>

| | | | |
|---------|------|------------------|--------|
| 2013年7月 | 第8回 | 日中韓賢人会議 | 【洞爺湖町】 |
| 2014年8月 | 第9回 | 国際反芻動物生殖科学シンポジウム | 【帯広市】 |
| 2014年9月 | 第9回 | 日米協会国際シンポジウム | 【札幌市】 |
| 2018年8月 | 第30回 | 世界牛病学会(予定) | 【札幌市】 |
| 2020年8月 | 第29回 | 低温物理学国際会議(予定) | 【札幌市】 |
| 2023年8月 | 第34回 | 国際電波科学連合総会(予定) | 【札幌市】 |

◆国際会議の開催状況



北海道における国際会議の開催件数の推移と全国順位

| 年 | 2010年 (H22) | 2011年 (H23) | 2012年 (H24) | 2013年 (H25) | 2014年 (H26) | 2015年 (H27) |
|----|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 件数 | 97 | 81 | 68 | 98 | 107 | 114 |
| 順位 | 9 | 8 | 9 | 8 | 7 | 9 |

(日本政府観光局(JNTO)「国際会議統計」)

北海道における国の機関等による国際会議の開催件数

| 年 | 2010年度 (H22年度) | 2011年度 (H23年度) | 2012年度 (H24年度) | 2013年度 (H25年度) | 2014年度 (H26年度) | 2015年度 (H27年度) |
|----|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 件数 | 10 | 10 | 9 | 10 | 6 | 10 |

(国土交通省北海道局調べ)



北海道洞爺湖サミット(洞爺湖町) ※外務省提供



日本APEC貿易担当大臣会合(札幌市) ※外務省提供

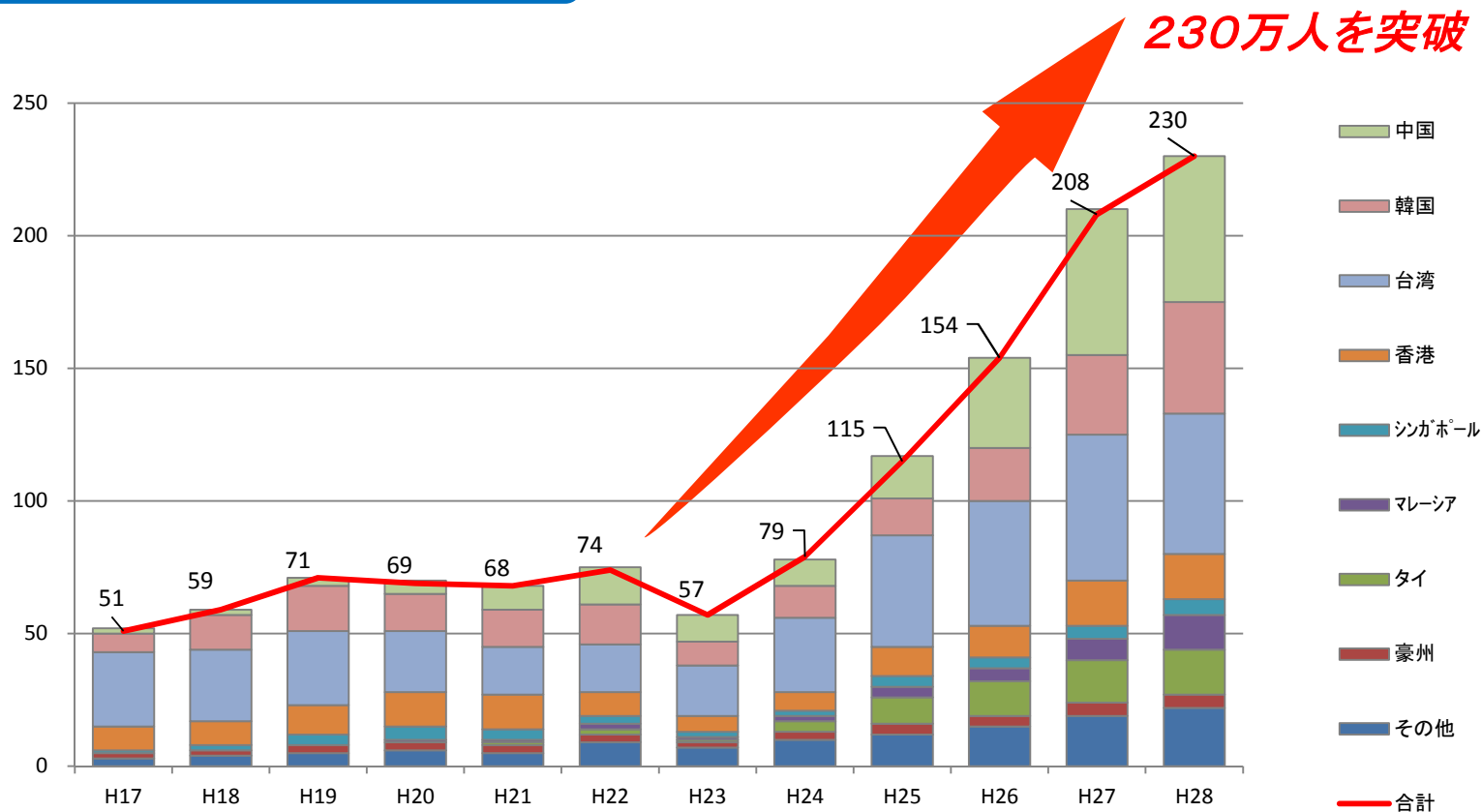
◆訪日外国人来道者数



- 平成28年度の訪日外国人来道者数は230万人となり、**2年連続で200万人超え**
- マレーシア・韓国・シンガポールを中心に、多くの国・地域で前年比増

訪日外国人来道者数の推移

(万人)



(年度)

◆交通アクセス ～国際航空路線～

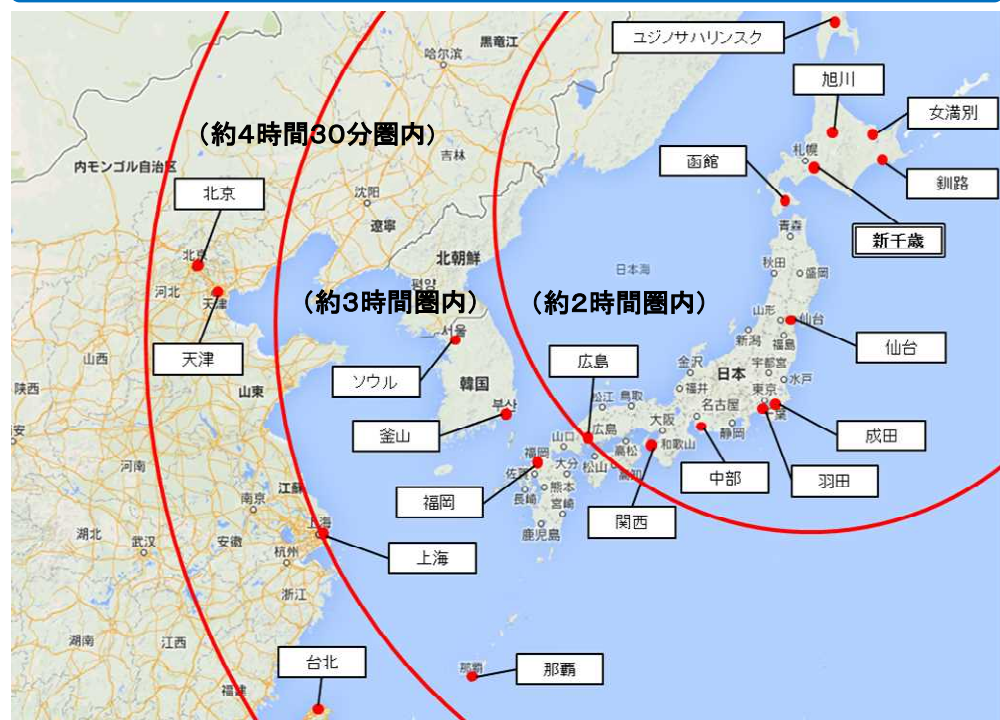


- 道内空港(新千歳・函館・旭川)に発着する国際定期航空路線は21路線
- **北京・ソウルからのアクセスが便利**(地方空港の中ではトップクラス)

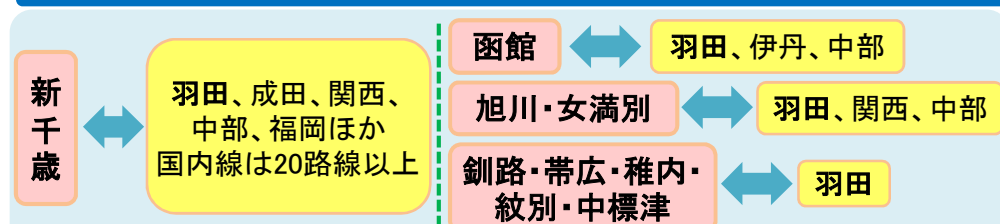
道内空港の国際定期航空路線

| 空港 | 路線 | 航空会社 | 便数(週) |
|-----------|-------------------|--------------|-------|
| 新千歳 | ソウル線 | 大韓航空 | 13 |
| | | ジンエアー | 7 |
| | | ティーウェイ航空 | 7 |
| | | アジアナ航空 | 7 |
| | | チェジュ航空 | 7 |
| | 大邱線 | エアプサン | 5 |
| | | 大韓航空 | 3 |
| | 釜山線 | エアプサン | 6 |
| | 北京線 | 中国国際航空 | 7 |
| | 天津線 | 天津航空 | 2 |
| | 上海線 | 中国東方航空 | 7 |
| | | 春秋航空 | 7 |
| | 杭州線 | 上海吉祥航空 | 7 |
| | | 海南航空 | 2 |
| | 南京線 | 中国東方航空 | 2 |
| | 香港線 | キャセイバシフィック航空 | 5 |
| | | 香港航空 | 9 |
| | 台北線 | エバー航空 | 14 |
| | | チャイナエアライン | 7 |
| | シンガポール線 (台北経由) | ピーチ・アビエーション | 3 |
| | | スクート | 3 |
| 高雄線 | チャイナエアライン | 5 | |
| バンコク線 | タイ国際航空 | 7 | |
| クアラルンプール線 | エアアジアX | 4 | |
| グアム線 | ユナイテッド航空 | 2 | |
| ホノルル線 | ハワイアン航空 | 3 | |
| 函館 | ユジノサハリンスク線 | オーロラ航空 | 3 |
| | 台北線 | エバー航空 | 7 |
| 旭川 | ソウル線 | タイガーエア台湾 | 4 |
| | 台北線 | アジアナ航空 | 季節運行 |
| | 上海線 | エバー航空 | 季節運行 |

新千歳空港から主要空港への所要時間



国内線(各都市とのアクセスも充実)



※平成29年10月現在

※新千歳空港から札幌駅までは、JR快速エアポートで **最速37分**

◆交通アクセス ～北海道新幹線の開業～



- 昨年3月に北海道新幹線が開業(新青森～新函館北斗間)
- 通年での安定した大量輸送が可能

北海道新幹線の概要

東京～新函館北斗間

1日10往復

最短4時間2分

※仙台・盛岡・新青森～新函館北斗間 各1日1往復



新函館北斗駅からの主なアクセス

<函館方面> (快速約15分、普通約19分)

アクセス列車「はこだてライナー」

特急列車「スーパー北斗」「北斗」

普通列車

※このほかバス路線もあり

<札幌方面>

(札幌まで約3時間30分)

特急列車「スーパー北斗」「北斗」

普通列車

バス 大沼・鹿部線

バス 大沼流山牧場行 (大沼公園方面)

都市間高速バス

函館特急ニュースター号・高速はこだて号

新函館北斗駅

函館駅

札幌

近隣のコンベンション施設

■ 函館アリーナ

- ・2015年8月オープン
- ・函館空港から車で10分、湯の川温泉至近
- ・最大5千人収容のメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、武道館、多目的会議室等を整備
- ・市内には、函館山からの夜景や異国情緒漂う町並みなど、外国人にも人気の観光スポットが多数あり



◆道内の主なコンベンション施設



札幌

◆札幌コンベンションセンター

- 主要施設
 - ・大ホール：スクール1,200人、シアター2,500人
 - ・中ホール：スクール272人、シアター600人
 - ・特別会議場：スクール272人、シアター700人
- 主な開催実績
 - ・2010APEC貿易担当大臣会合
 - ・第19回国連軍縮会議



札幌

◆かでる2・7 [道立道民活動センター]

- 主要施設
 - ・かでるホール：固定席521人
 - ・大会議室：スクール216人、口の字78人
- 主な開催実績
 - ・第6回日本・ニュージーランド会議
 - ・第17回FATS



旭川

◆旭川大雪クリスタルホール

- 主要施設(国際会議場)
 - ・大会議室：スクール180人、シアター300人
 - ・レセプション室：立食100人



北見

◆北見芸術文化ホール

- 主要施設
 - ・中ホール：固定席420人



釧路

◆釧路市観光国際交流センター

- 主要施設
 - ・大ホール：スクール1,200人、シアター1,500人
 - ・視聴覚室：スクール63人、シアター100人
- 主な開催実績
 - ・ラムサール条約締結国会議
 - ・東アジア・オーストラリア地域
フライウェイパートナーシップ



函館

◆函館アリーナ

- 主要施設
 - ・メインアリーナ：スクール2,279人、シアター5,000人
 - ・サブアリーナ：スクール696人、シアター1,044人
 - ・武道館、多目的会議室



帯広

◆とかちプラザ

- 主要施設
 - ・大集会室：スクール192人
- 主な開催実績
 - ・第1回G8水と衛生に関する専門家会合

◆その他地域の施設・開催実績

◆ザ・ウィンザーホテル洞爺(洞爺湖町)

- ・北海道洞爺湖G8サミット
- ・第8回日中韓賢人会議

◆星野リゾートトマム(占冠村)

- ・第5回太平洋・島サミット(注：開催時は「アルファリゾート・トマム」)

◆ヒルトンニセコビレッジ(ニセコ町)

- ・第8回日豪観光交流促進協議

◆ユニークベニュー・エクスカーショ



モエレ沼公園ガラスのピラミッド(札幌)



彫刻家イサム・ノグチが設計し、「全体を一つの彫刻作品とする」というコンセプトのもとに造成。雪冷房を利用した園内のガラスのピラミッドでは、緑と調和した幻想的なパーティーが楽しめる。

札幌市内エクスカーショ例(半日コース)



①北海道神宮



②大倉山展望台



③白い恋人パーク



④サッポロビール園(食事)

雪の美術館(旭川)

建物から展示まで全て雪をイメージして造られた美術館。館内のカフェでは、少人数から最大100名まで食事が可能。近隣には、北海道を代表する染織工芸品である優佳良織(ゆうからおり)の工芸館などが併設。



民族共生象徴空間(略称:象徴空間)(白老)

2020年4月24日に、我が国の先住民族であるアイヌの文化復興等に関するナショナルセンターとして、「民族共生象徴空間」が白老町ポロト湖畔にオープン。

中核区域となるポロト湖畔には、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設が整備される。



函館山ロープウェイ山頂施設(函館)



函館山の山頂から望む市街地の夜景は、香港、ナポリと並ぶ世界三大夜景の一つ。夜景を眼下に思い出に残るレセプションパーティーが楽しめる。

北海道博物館(愛称:森のちやれんが)(札幌)

2015年4月に開館。「北東アジアの中の北海道」、「自然と人との関わり」というコンセプトに、「アイヌ文化の歴史性」という視点を取り入れ、北海道の自然、歴史、文化を描く。



北海道150年

- ・2018年に、本道が1869年に「北海道」と命名されてから150年目という節目を迎えます。
- ・新たな北海道の飛躍に向けて、北海道の歴史や文化、そして私たちの暮らしを改めて見つめ直す機会となります。



◆北海道の自然・文化



■ **札幌：開拓史時代の洋風建築**
(札幌時計台、豊平館ほか(北海道遺産))



■ **稚内港北防波堤ドーム**
(北海道遺産)



■ **旭川：旭山動物園**



■ **紋別：流水とガリンコ号**
(北海道遺産)



■ **洞爺湖有珠山ジオパーク**
(2009.8 日本初の「世界ジオパーク」登録)



■ **北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群**
(2009.1 世界遺産暫定一覧表記載)



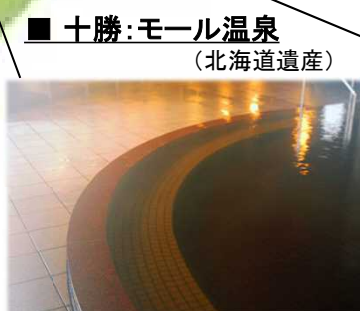
■ **函館の夜景**



■ **知床** (2005.7「世界自然遺産」登録)



■ **釧路湿原**
(1980.6 日本初のラムサール条約登録湿地)



■ **十勝：モール温泉**
(北海道遺産)




北海道遺産
次の世代に残したい北海道の宝物

次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、
北海道民全体の宝物として選ばれた52の遺産

◆国際会議等の誘致に係る推進体制



北海道MICE誘致推進協議会

○ 国内外の学術団体・企業等のコンベンション主催者に対し、北海道の良質なコンベンション環境を紹介し、北海道へのコンベンション誘致の推進に資することを目的として、1993年に設立。

○ 現在は、札幌・旭川・函館・釧路・北見・帯広市の各都市のコンベンション誘致支援機関及び北海道で構成されており、2008年に開催された「北海道洞爺湖サミット」で培われたノウハウと、各構成都市のネットワークを最大限に活用して、「北のおもてなし」で、力あふれる印象深いコンベンションの開催をサポート。

【構成機関】

(公財)札幌国際プラザ
(一社)旭川観光コンベンション協会
函館市／(一社)函館国際観光コンベンション協会
北見市観光協会連絡協議会
釧路市／(一社)釧路観光コンベンション協会
帯広市／(一社)帯広観光コンベンション協会
北海道／(公社)北海道観光振興機構

◇ URL http://www.conventionsapporo.jp/hokkaido_convention

◇ メールマガジン <http://conv-promotion.mash-net.jp/regist.asp>

北海道コンベンション誘致促進助成金

○ 助成の対象となるコンベンション

2日間以上にわたって開催される学会、会議等のうち「北海道外(外国を含む)からの参加者が全体の2分の1以上」かつ「開催される市町村またはコンベンションビューロー等から助成金が交付されるもの」であって、次のいずれかに該当するもの。

ア 参加者が300人以上であり、かつ、そのうち外国からの参加者が50人以上の規模で開催される国際的なコンベンション

イ 参加者が1,000人以上の規模で開催される全国的なコンベンション

○ 助成限度額 100万円～300万円

※主催者が国または地方公共団体のもの、営利または収益を目的としたもの等は、助成の対象外です。

※再来年度以降開催のコンベンションについて申請が可能です。

<助成金に関する詳細(北海道観光局HP)>

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/370-convention/convention.htm>



その先の、道へ。北海道

Hokkaido. Expanding Horizons.

2018年は北海道150年

**国際会議等の北海道開催の推進について
各省庁の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。**



【お問い合わせ先】

北海道総合政策部国際局国際課プロモーショングループ
(担当：浦崎、今（こん）)

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL：011-231-4111（内線：21-204（浦崎）21-219（今））
011-204-5114（グループ直通）

FAX：011-232-4303